

## 昭和48年度第2回シグマ研究専門委員会議事録

日時 昭和48年12月14日(金) 10時～17時30分

場所 日本原子力研究所東京本部第2会議室

出席者 百田光雄(東北大), 安成弘(東大), 飯島俊吾(NAIG),  
五十嵐信一(原研), 大竹巖(富士), 桂木学(原研),  
大田正男(九大), 木村逸郎(京大炉), 北沢日出男(東工大, 山室代理), 菅原彬(MAPI, 岩城代理), 竹腰秀邦(原研),  
塚田甲子男(原研), 中嶋龍三(法大), 夏目晴夫(原研),  
西村和明(原研), 久武和夫(東工大), 更田豊治郎(原研)

オブザーバー

大杉茂治(原研)

### 配布資料

1. 科学技術情報の流通体制について (塚田)
2. 第6回 INDC 会議(メモ) (西村)
3. JNDC ニュースについて (更田)
4. Decay Heat の基礎データ評価に関する答申 (中嶋)
5. 第16回 EANDC 会合の宿題 (塚田)
6. JENDL について

### 議 事

#### 1. 前回議事録の確認

訂正は次の通り

P.1 出席者に「木村(京大)」を追加

P.4 overrup → overlap

P.6 7～8行目 コメントがあった。結果の → コメントがあった  
結果の……

#### 2. 報告事項

2-1 五十嵐委員より, 原研の計算機料金の変更にもない, 核データ

の複写料金が若干変更され、近くJNDCニュースで通知される予定である旨、報告があった。

2-2 科学技術情報の流通体制について(資料-1)

塚田委員より、資料にもとづき最近の国内の科学技術情報の流通体制整備の動向につき、説明があった。

2-3 第6回INDC報告(資料-2)

西村委員より、資料にもとづき、報告があった。

2-4 JNDCニュースの「資料紹介」について(資料-3)

更田委員より、資料にもとづいて問題提起があり、資料記載の(b)案を基礎に編集委員会で検討することになった。

2-5 坂田氏の幹事、辞任と後任について

坂田氏が業務多忙のため幹事を辞任したいとの申出があり、後任に大竹氏を推したい旨、桂木委員より提案あり、了承された。

2-6 専門部会の報告

(1) 燃料計量核データ専門部会(久武委員)

(a) 前に原研内で出されていた燃焼率関係リクエストをスクリーニングし、印刷物としてとりまとめ第6回INDC会議に報告するとともに関係者に配布した。

132のリクエストのうち25はすでにデータがあるのでおとした。なお、うち57がpriority I, 50がpriority IIとなった。詳細はいずれJAERI-memoにする。

(b) 核燃料計量核データリクエストのアンケートを全国的に行ない9月末でメ切った。集った件数は41件、内容は多岐多様にわたっている。これをもとに今後の作業を進めたい。同時に必要なデータのCompilationも進めたい。来年2月の原子力総合シンポジウムで当専門部会の活動状況に関する報告が行なわれる。

・なお、上記(a)の結果をINDC会議で報告したときのもようについで西村委員から報告があった。

(2) 炉定数専門部会（桂木委員）

(a) IBMでのSCORE-3のテストランは終了した。なお、SCORE-3のFACOM-230-60への変換はできないという結論がでている。

(b) Zrの炉定数作成は終了した。ベンチマークテストは、まだ開始していない。（年内に終る予定）。

(c) FFP炉定数は、JNDCの評価値を用いたもの。Cookのデータを用いたもの。いずれも終了し、後者はJAERI-Mレポートにして提出した。

(3) 核データ専門部会（五十嵐委員）

(a) 核データ評価ワーキンググループは、高速炉シンポジウムとの関連で1回しか開けなかった。238Uについては、ENDE/Bのフォーマットで完成している。

(b) FPワーキンググループは、FP28核種については炉定数の方で検討してもらったところ、100keV以下でcapture cross sectionが高めにできているとの返答があり、現在見なおし中である。3月位までには、結果をだしたい。この他については準備中である。

(c) 核データ検索ワーキンググループは、測定データと評価済みデータの重ね合せプロットングプログラムSPLINTを使い、これによって、プロットングを行ない今後の方向をきめることにしている。また、CODN Lesca氏とDiscussionをした。（五十嵐、更田）

(d) 熱中性子散乱ワーキンググループ後藤氏欠席のため詳細報告なし。

・なお、久武委員より、他の専門部会のメンバーに兼務を依頼することにより部会間の連絡を強化したいこと、データ収集の方法などについても協力がほしい旨希望があり、その方向で考えることにな

った。

## 2-7 高速炉物理シンポジウム2つの話題(桂木委員)

桂木委員より概況の報告があり、炉物理側から核データ側への要求されているものについて2, 3の意見の交換が行なわれた。

## 3. 審議事項

### 3-1 Fusion委員会との関係

未だFusion委員会からシグマ委員会への公式レスポンスがない旨、西村委員より報告があり、安委員が事情を調査することになった。

Fusion委員会の方からの具体的な要求は何か。またリクエストリスト作成をどうするかなどの論議があった。

結局、両委員会の何人かのメンバーでプレリミナリな意見交換をすることを先方に提案することとし、その橋わたしは、安委員が行なうことになった。

### 3-2 Decay heatの基礎データ評価に関する答申

中嶋委員より資料にもとづき答申があった。

これに対しP.2「Decay heat評価研究の積み上げがなかったことが正に問題」P.3「Decay heat問題はシグマ委員会或いは他の研究機関で……」

の個所は、シグマ委員会の内部的反省としては、結構だが、むしろ原子炉技術者の方から問題提起がなかったことに基本的問題があるとも考えられるとの意見がだされた。またP.3 3~4行、P.4 6ヶ月~1年という限定、P.4 注1, 注2の意味、などについて質疑応答があった。

さらに、Decay heat問題をシグマ委員会でとりあげるべきであり、またそれができるとい根拠、またP.4のassessの意味、燃料計量核データ専門部会に所属させるという案がでた経緯などについても質疑応答があった。

なお必要経費としては、会合費程度であろうとの説明があった。

今後の方向としては、前向きで検討していくこととし、継続審議することとした。この間、中嶋、久武、西村の三委員などで、予算、事務的問題などの問題をさらに煮つめておくこととした。

### 3-3 Progress Report について

百田委員長より本年9月発行の progress report につき全般的サーベイが行なわれた。その他各委員よりコメントがあり、特にCINDAへのエントリーとの関係や原稿は直接写真印刷にすること等に関し、アナウンスの段階で注意を喚起する必要があるとの要望があった。

### 3-4 第16回 EANDC会合の宿題

塚田委員より、資料にもとづき説明があった。なお、詳細については、塚田委員と関係者との間で打合せることとした。

### 3-5 JENDLについて

百田委員長、大杉オブザーバーより動燃事業団がJENDLの促進に支援を行なうことについて同事業団筋から非公式の打診を受けた経過について報告があり、続いて、資料にもとづいて核データ研よりJENDL推進の考え方の説明があった。

各委員から、原研およびシグマ委員会が体制を強化してJENDL/Iを早期に作ろうということは、既定方針であってその主体性で体制を強化して推進すべきである旨確認された。動燃事業団からの受託については、JENDLの性格から完全公開を条件として、幹事会において、具体的に検討することとした。

## 4. その他

なお、明年2月4、5日に熊取で核断面積に関する短期研究会がある旨、アナウンスがあった。